

「大涅槃像」修復へ 佐賀・高伝寺

国内最大級とされる涅槃像で、佐賀市本庄町、曹洞宗高伝寺(高関者知憲住職)にある「大涅槃像」(市指定重要文化財)が修復されることになり、7日、福岡県太宰府市の九州国立博物館に搬送された。修復は江戸時代の1842年に行わ



「大涅槃像」を壁から下ろす信徒ら

れて以来2回目で、来年11月まで。費用は2400万円。高伝寺と佐賀市が折半する。

大涅槃像は縦14・4尺、横6・3尺。1706年に佐賀藩の3代藩主鍋島綱茂が、京都の東福寺にある涅槃図を模写させたと伝えられる。縦45寸、横30寸の和紙約700枚を張り合わせている。

この日は、信徒ら約20人が、本堂の壁に掛けられた大涅槃像を慎重に下ろし、巻いて梱包した。九州国博では、文化財の修復を専門に行う表具師らでつくる国宝修理装演師連盟のメンバー

佐賀新聞



出は初めて。来年十一月までの約一年半をかけ、絵図中央に生じている裂け目やしわの修復、軸の取り換え

大涅槃図修復 九博へ搬出

この日は作業員ら約20人が慎重に梱包作業を進めた。担当する国宝修理装演師連盟九州支部は「万全の態勢を取り、無事成功させたい」と話していた。

(光武)

本新聞

涅槃図 九州国博へ搬出



佐賀市・高伝寺 来年11月まで
旧佐賀藩鍋島家の菩提寺、高伝寺(佐賀市)が七日、修復のため九州国立博物館(福岡県)一七〇六年に制作され、前回修復から百六十年来十一月末まで、紙の破れやしわを直す作

涅槃図は、縦六尺、横八尺。寺にある図の滅した釈迦をたちが取り囲む様子が描かれている。作業には、の専門家集団「装演師連盟」が当たる。しなっていたため取り換えるが応急修復とい

佐賀

SAGA